

中野市水道事業運営審議会 会議録（要旨）

日 時：令和3年9月27日（月）午後1時30分～2時30分

場 所：会議室52・53

出席者：委員（敬称略）池田喜芳、関きよ子、中山幸利、小林由美、
渡辺重雄、山岸洋子、高田守、山岸礼子

事務局 上野建設水道部長、池田上下水道課長、早見課長補佐兼
監理係長、小林課長補佐兼上水道係長、鈴木下水道係長、
橋場営業係長、山田副主幹、吉池主任主事、徳竹主事

- 1 開 会
上野建設水道部長
- 2 あいさつ
竹内副市長
- 3 中野市上下水道事業の説明【資料1】
早見課長補佐兼監理係長

○質疑応答

【委員】

（資料1、P.1の）「今後について」にある、「中野市水道ビジョン」を令和2年3月に改訂したとあるが、具体的にどう改訂されたのか。

【池田上下水道課長】

アセットマネジメントとって、埋設されている水道管や水をきれいにする浄水場などの施設が老朽化していく中、それを更新する必要があるが、財政的に問題はないのか、というのを2年間かけて調査及び検討をした。そのうえで、順次、水道管や浄水場を更新させていただくというようなことを記載した冊子を作成した。

大きなところでは、昭和43年に建設された栗和田浄水場という施設があり、すでに52年経過しているので、来年、設計に入り、更新をするが、それでも財政計画として成り立つかどうかということも記載してある。

水道ビジョンの冊子は上下水道課にあるほか、ホームページにも掲載しているので、ご覧いただきたい。

【委員】

管や施設などが老朽化して駄目になった場合は、水道料金の値上げなどを考えていかなければいけないのか。

【池田上下水道課長】

管や施設など、老朽化はしているが、配水管だと、耐用年数が大体 38 年から 40 年となっている。管路は距離が長いので、それを一気に更新するとなると、当然お金が足りなくなる。そのため、更新を前後 5 年くらいに平均化することで、事業費の平均化を図ったということも水道ビジョンには書いてある。我々の方でそういった努力はしていくが、この先、人口減少が進んでいくなかで、いつかは料金の改定をお願いする場面もあると思う。

しかし、今回改訂した水道ビジョンには、ここから 10 年、栗和田浄水場を更新しても現在の水道料金で間に合うのではないかという試算も出ており、そのようなことでお願いしたい。

4 協議事項

(1) 会長の互選並びに会長代理の指名について

中山幸利委員を会長に選出

山岸洋子委員を会長代理に指名

(2) 諮問

竹内副市長

「令和 4 年 4 月 1 日から令和 7 年 3 月 31 日までの 3 年間の算定期間にかかる水道料金並びに下水道使用料及び農業集落排水施設使用料について、据え置くこととする。」

諮問内容について事務局から説明（吉池主任主事、山田副主幹）

【資料 2、3】

○質疑応答

【委員】

「中野市下水道事業経営戦略」のなかで、今年度下水道使用料の 5% アップを見込んでいたとのことだったが、5% というのは 3 千万くらいか。

【早見課長補佐】

使用料の収入が 6 億～7 億くらいなので、3 千万～3 千 500 万あたりかと。

【委員】

料金改定の予定だったのが、施設統合などで、人件費などが減った分が 3 千万ということか。

【早見課長補佐】

（資料 3、P. 4 部分の）し尿投入施設に係る下水道使用料で 3 千万の増を見込んでいることと、堆肥化施設の休止によるランニングコストの削減によるものである。

【委員】

令和3年度から、草間、日野、延徳の処理場を廃止していくということであるが、廃止後の施設等はそのままにしておくのか。それとも解体するのか。

【早見課長補佐】

処理場は今のところはそのままにしておき、万が一のための倉庫などに使用するため、解体等の予定はない。

【委員】

場合によっては再利用するかもしれないということか。

【池田上下水道課長】

廃止した処理場は、大雨が降った際など、雨水などを一時的に貯留する槽などとして再利用したいと考えている。

【委員】

施設は老朽化しているが、使用しようと思えば使用できるということで理解した。

江部にある中野浄化管理センターは台風19号（令和元年東日本台風）の際の大雨で被害はなかったのか。

【池田上下水道課長】

中野浄化管理センターは、少し土盛りがしてあることで、それ以上は水が来なかったのが被害はなかった。しかし、上今井地区にある上今井処理場についてはかなり被災してしまった。現在は台風19号時に浸水してしまった高さまで水が来ても問題ないように電気設備等のかさ上げをするなどの対応をした。

【委員】

これからの災害はどういうことが起きかわからないので、せっかく令和6年度まで料金改定をしないという方針のなかで、例えば設備が壊れた場合、料金に反映されるというのは困る。その点を考慮いただくようお願いしたい。

【池田上下水道課長】

延徳処理場の統廃合で、中野浄化管理センターへ接続することを考えると、中野浄化管理センターもいつ水が上がってくるかわからないような場所ではあるので、今後中野浄化管理センターでの処理を集中させていくにあたり、そういったリスク管理的なところも含めて考えていきたい。

【委員】

（資料2、P.6「(2) これまでの主な経営健全化の取組み」の部分で) 施設管理とか維持管理を経営健全化に取り組むということで、公的な部署でない組織への外部委託について、心配な面はないのか。

また、下水道の方で、堆肥化施設が休止になったことで、おすみちゃんの利用をしている方から急に休止になったという声があったのだが、休止の理由が公に公表されていなかったと思うのだが、施設の老朽化で作業ができなくなったのか、それともコストがかかりすぎて対応できなくなったのかを教えてほしい。

【池田上下水道課長】

施設の運転管理というのは大分前から入札により決定した民間の業者に委託している。施設の運転管理を外部委託することに心配はないかと問われたときに、心配はないとお答えしている。例えば、コロナ禍のような状況においても、上下水道課の職員が施設の運転管理をしていた場合、誰かが感染したとしても、水道の供給は絶対に止めることはできない。しかし、現在委託している業者は割と大きな会社であるため、代替職員を十分に用意できるということがある。また、今般、水道の民営化のような話がニュース等で話題となり、ご心配いただいているかもしれないが、中野市では民営化への舵は切っていない。民営化というのは、ある程度、収支、経営が傾いたとか、職員不足というのが懸念される際に検討されることだと思うが、先に示したとおり、今のところ健全経営をしているため、現在の中野市にはメリットがないと考えている。

【早見課長補佐】

次に、堆肥化施設の休止の背景についてであるが、堆肥化施設は費用対効果が非常に悪い施設であること、また、老朽化がかなり激しくなっていて、修繕に非常にお金がかかってしまう状況となっていた。売り上げが少ない中、高額の維持管理費がかかってしまうことや、「未土利」は継続することなどを鑑み、今回はおすみちゃんを休止させていただくこととなった。

今年度4月号の広報なかので、おすみちゃんの在庫が尽き次第、販売を終了するという周知させていただいたが、それを急と捉えた方もいらっしゃったということで申し訳なかった。

下水道事業の継続を考えるうえで、おすみちゃんの休止を決定させていただいた。

○採 決

<諮問に基づいた答申とすることについて、挙手により全員賛成>

【会長】

答申についてまとめたいが事務局で案はあるか。

【池田上下水道課長】

答申については、諮問のとおり賛成のご決定をいただいたので、諮問書の内容に審議経過を書き加えて答申書案を作成し、会長及び会長代理に了承を得たうえで市長に答申することにしたい。

<全員異議なし>

(3) そ の 他

○質疑応答

<特になし>

5 そ の 他

【池田上下水道課長】

ただ今決めていただいた内容により、10月4日月曜日、午前10時00分に会長及び会長代理から市長へ答申をお願いしたい。

その他、委員の皆様からご意見等があれば発言をお願いしたい。

<特になし>

6 閉 会

池田上下水道課長